

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	無期限
主投資対象	親投資信託である「しんきんアジア債券マザーファンド」(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券を主要投資対象とします。
運用方針	<p>①投資にあたっては、主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じ、原則として以下の方針に基づき運用を行います。</p> <p>1)新興国を含むアジア地域(日本を除く。)の外貨建ソプリン債券および準ソプリン債券への投資を通じ、アジア各国の債券に分散投資を行います。</p> <p>2)F T S Eアジア国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)を参考として、投資環境、金利水準ならびに流動性等を勘案して、ポートフォリオの構築を図ります。</p> <p>3)主にアジアの自国通貨建ソプリン債券、準ソプリン債券に投資するほか、米ドルなどの外国通貨建ソプリン債券・準ソプリン債券に投資する場合もあります。(米ドルなどの外国通貨建債券に投資した場合は、原則として、実質的に自国通貨建となるように外国為替予約取引等を行います。)</p> <p>②マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>③外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。</p> <p>④市場動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
主な投資制限	<p>①株式への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>②同一銘柄の株式への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>③同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>④投資信託証券(マザーファンドの受益証券は除きます)への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>⑤同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>⑥外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p>
収益配分方針	<p>毎決算時に原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます)等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、利子・配当等収益を中心に安定した収益分配を行うことを目指し、委託者が基準価額等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p>

運用報告書(全体版)

しんきんアジア債券ファンド (毎月決算型) 愛称：アジアの恵み

第80期(決算日：2019年2月20日)
第81期(決算日：2019年3月20日)
第82期(決算日：2019年4月22日)
第83期(決算日：2019年5月20日)
第84期(決算日：2019年6月20日)
第85期(決算日：2019年7月22日)


受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきんアジア債券ファンド(毎月決算型)」(愛称：アジアの恵み)は2019年7月22日に第85期の決算を行いました。

ここに、第80期から第85期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<http://www.skam.co.jp>

■運用報告書に関しては、下記にお問い合わせください。

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
 <コールセンター> ☎ 0120-781812
 (土日、休日を除く) 携帯電話・PHSからは03-5524-8181
 9:00~17:00

本資料は投資信託の運用状況を開示するためのものであり、ファンドの勧誘を目的とするものではありません。

目 次

◇しんきんアジア債券ファンド（毎月決算型）	頁
最近30期の運用実績	1
当作成期中の基準価額と市況等の推移	2
当作成期中（第80期～第85期）の運用経過等	3
1万口当たりの費用明細	6
売買及び取引の状況	6
利害関係人との取引状況等	7
第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況	7
自社による当ファンドの設定・解約状況	7
組入資産の明細	7
投資信託財産の構成	8
資産、負債、元本及び基準価額の状況	8
損益の状況	9
分配金のお知らせ	10
◇親投資信託の運用報告書	
しんきんアジア債券マザーファンド	11

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

○最近30期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 券 組 入 比 率	純 資 産 総 額	
		税 分	込 配	み 期 金 騰 落			
	円		円		%	百万円	
56期(2017年2月20日)	9,587		80		△0.6	96.8	1,862
57期(2017年3月21日)	9,595		80		0.9	94.6	1,917
58期(2017年4月20日)	9,283		80		△2.4	95.9	1,890
59期(2017年5月22日)	9,533		80		3.6	97.3	1,948
60期(2017年6月20日)	9,539		80		0.9	95.8	2,006
61期(2017年7月20日)	9,471		80		0.1	96.5	2,040
62期(2017年8月21日)	9,160		80		△2.4	95.8	2,033
63期(2017年9月20日)	9,491		80		4.5	96.2	2,184
64期(2017年10月20日)	9,388		80		△0.2	95.3	2,287
65期(2017年11月20日)	9,271		80		△0.4	96.2	2,374
66期(2017年12月20日)	9,424		80		2.5	96.7	2,524
67期(2018年1月22日)	9,430		80		0.9	97.2	2,599
68期(2018年2月20日)	8,805		80		△5.8	96.7	2,509
69期(2018年3月20日)	8,571		80		△1.7	96.5	2,498
70期(2018年4月20日)	8,647		80		1.8	96.0	2,572
71期(2018年5月21日)	8,519		80		△0.6	96.0	2,573
72期(2018年6月20日)	8,321		80		△1.4	96.0	2,567
73期(2018年7月20日)	8,242		80		0.0	96.1	2,596
74期(2018年8月20日)	7,962		80		△2.4	95.4	2,542
75期(2018年9月20日)	7,893		80		0.1	96.2	2,556
76期(2018年10月22日)	7,658		80		△2.0	96.2	2,545
77期(2018年11月20日)	7,842		80		3.4	97.2	2,604
78期(2018年12月20日)	7,825		80		0.8	97.6	2,608
79期(2019年1月21日)	7,790		60		0.3	97.1	2,624
80期(2019年2月20日)	7,937		60		2.7	97.8	2,669
81期(2019年3月20日)	7,953		60		1.0	96.5	2,689
82期(2019年4月22日)	7,994		60		1.3	97.0	2,719
83期(2019年5月20日)	7,669		60		△3.3	96.8	2,629
84期(2019年6月20日)	7,653		60		0.6	96.5	2,648
85期(2019年7月22日)	7,859		60		3.5	97.4	2,738

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

(注3) 当ファンドは、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建ソブリン債券および準ソブリン債券へ投資することにより、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指していますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

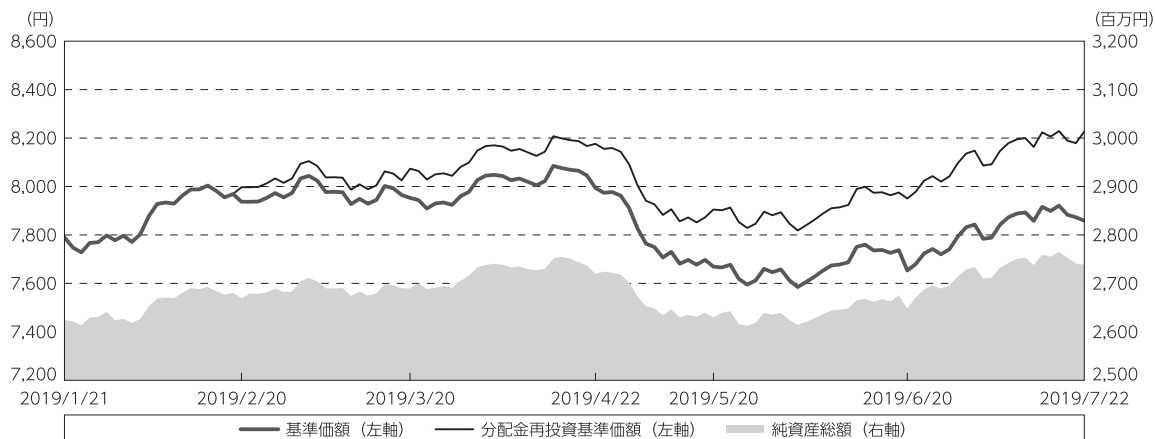
決 算 期	年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		債 組 入 比 率
			騰	落	
第80期	(期 首) 2019年 1月21日	円 7,790		% —	% 97.1
	1月末	7,771		△0.2	97.0
	(期 末) 2019年 2月20日	7,997		2.7	97.8
第81期	(期 首) 2019年 2月20日	7,937		—	97.8
	2月末	7,973		0.5	97.6
	(期 末) 2019年 3月20日	8,013		1.0	96.5
第82期	(期 首) 2019年 3月20日	7,953		—	96.5
	3月末	7,960		0.1	95.9
	(期 末) 2019年 4月22日	8,054		1.3	97.0
第83期	(期 首) 2019年 4月22日	7,994		—	97.0
	4月末	7,911		△1.0	96.6
	(期 末) 2019年 5月20日	7,729		△3.3	96.8
第84期	(期 首) 2019年 5月20日	7,669		—	96.8
	5月末	7,613		△0.7	96.2
	(期 末) 2019年 6月20日	7,713		0.6	96.5
第85期	(期 首) 2019年 6月20日	7,653		—	96.5
	6月末	7,794		1.8	95.8
	(期 末) 2019年 7月22日	7,919		3.5	97.4

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

○当作成期中（第80期～第85期）の運用経過等（2019年1月22日～2019年7月22日）

<当作成期中の基準価額等の推移>



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2019年1月21日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

<基準価額の主な変動要因>

当ファンドは、親投資信託である「しんきんアジア債券マザーファンド」を通じて、新興国を含むアジア地域(日本を除く。)の国債を中心とした外貨建債券へ分散投資を行っています。

当作成期における基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・米国の利下げ観測が高まったことに影響を受けて、アジア各国の金利も低下(債券価格は上昇)したこと。
- ・投資している各国債券の金利収入を得たこと。

<下落要因>

- ・米中貿易摩擦の激化や、景気悪化懸念でシンガポールドル、マレーシアリングットが対円で下落したこと。

＜投資環境＞

（債券市況：アジア圏）

米国経済は底堅い動きが続きましたが、米中貿易摩擦の高まりや中国、欧州の景気鈍化を受けて、景気悪化観測が高まり、米連邦準備制度理事会（FRB）は、それまでの利上げ姿勢から様子見姿勢に転じ、さらに、FRB高官が利下げに言及するなどしたことから、利下げ観測が高まりました。米国の利下げ観測の高まりを受けて、アジア各国の金融当局も金融緩和姿勢となったことから各国金利も前作成期末比で低下となりました。

（為替市況：アジア圏）

FRBが利上げ姿勢を後退させたことで、リスク選好の動きが強まり、景気持ち直し観測も高まったことから、2019年1月下旬から5月上旬まではドル高円安となり、アジア各国通貨も円に対して上昇しました。しかし、5月上旬に米中貿易摩擦が再度激化し、円高ドル安に転じたことから、アジア各国通貨も円に対して下落しました。5月下旬から6月にかけて、FRB高官が利下げに前向きな姿勢を見せ始めたことから、リスク選好の動きが出て、アジア各国通貨は底堅く推移し、フィリピンペソ、タイバーツなどは対円で前作成期末比で上昇、インドネシアルピアはほぼ変わらず、マレーシアリングgit、韓国ウォンおよびシンガポールドルは下落となりました。

＜当ファンドのポートフォリオ＞

当ファンドは、親投資信託である「しんきんアジア債券マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、外貨建資産の組入比率が高位となるように調整しています。

●しんきんアジア債券マザーファンド

FTSEアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、投資環境、金利水準および流動性等を勘案し、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの6か国のソブリン債、準ソブリン債を投資対象とし、各国の現地通貨建国債を組み入れています。当作成期を通じて、当該債券の組入比率が高位となるように運用を行いました。

6か国の組入比率については、おおむねインドネシア29%程度、マレーシア24%程度、フィリピン19%程度、シンガポール・タイ14%程度および韓国0%としました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当ファンドは、「しんきんアジア債券マザーファンド」を通じ、FTSEアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建ソブリン債および準ソブリン債を投資対象としていますが、組入国および国別比率については、当社独自の判断で運用を行っているため、比較対象となるベンチマークおよび参考指標はありません。

<分配金>

収益分配金については、毎月安定した分配金を支払うことを目指し、当作成期中は、経費控除後の利子・配当等収益や基準価額水準等を勘案して、各期60円（1万口当たり、税込み）とし、合計で360円としました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期	第85期
	2019年1月22日～ 2019年2月20日	2019年2月21日～ 2019年3月20日	2019年3月21日～ 2019年4月22日	2019年4月23日～ 2019年5月20日	2019年5月21日～ 2019年6月20日	2019年6月21日～ 2019年7月22日
当期分配金	60	60	60	60	60	60
（対基準価額比率）	0.750%	0.749%	0.745%	0.776%	0.778%	0.758%
当期の収益	27	24	28	18	23	28
当期の収益以外	33	35	31	42	36	32
翌期繰越分配対象額	944	908	878	836	800	769

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

<今後の運用方針>

当ファンドは、「しんきんアジア債券マザーファンド」の受益証券への投資を通じ、外貨建資産の組入比率が高位となるように調整していきます。

●しんきんアジア債券マザーファンド

ポートフォリオ組入国は、金利水準および流動性を考慮し、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの5か国構成とします。組入銘柄は、引き続き現地通貨建国債の組入れを維持します。

○1万口当たりの費用明細

(2019年1月22日～2019年7月22日)

項 目	第80期～第85期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(19)	(0.242)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(32)	(0.404)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	4	0.055	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(4)	(0.055)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	57	0.728	
作成期間の平均基準価額は、7,837円です。			

(注1) 作成期間の費用（消費税等の掛かるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2019年1月22日～2019年7月22日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第80期～第85期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
しんきんアジア債券マザーファンド	千口 6,369	千円 10,000	千口 36,349	千円 55,000

(注) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2019年1月22日～2019年7月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況

(2019年1月22日～2019年7月22日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2019年1月22日～2019年7月22日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2019年7月22日現在)

親投資信託残高

銘	柄	第79期末	第85期末	
		口数	口数	評価額
		千口	千口	千円
しんきんアジア債券マザーファンド		1,768,675	1,738,696	2,731,666

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2019年7月22日現在)

項 目	第85期末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
しんきんアジア債券マザーファンド	2,731,666	98.5
コール・ローン等、その他	42,830	1.5
投資信託財産総額	2,774,496	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) しんきんアジア債券マザーファンドにおいて、当作成期末における外貨建純資産(2,727,576千円)の投資信託財産総額(2,731,745千円)に対する比率は99.8%です。

(注3) 外貨建資産は、当作成期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2019年7月22日現在、1ドル=107.98円、1シンガポールドル=79.33円、1マレーシアリンギット=26.24円、1タイバーツ=3.50円、1フィリピンペソ=2.11円、100インドネシアルピア=0.78円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第80期末	第81期末	第82期末	第83期末	第84期末	第85期末
	2019年2月20日現在	2019年3月20日現在	2019年4月22日現在	2019年5月20日現在	2019年6月20日現在	2019年7月22日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	2,698,537,896	2,715,871,912	2,754,224,232	2,653,240,574	2,675,505,418	2,774,496,617
コール・ローン等	35,785,555	34,967,040	38,925,815	35,493,188	49,644,478	42,830,361
しんきんアジア債券マザーファンド(評価額)	2,662,752,341	2,680,904,872	2,715,298,417	2,617,747,386	2,625,860,940	2,731,666,256
(B) 負債	29,412,011	26,550,251	34,422,731	23,493,801	27,450,135	35,936,698
未払収益分配金	20,176,100	20,289,167	20,415,053	20,574,187	20,760,465	20,906,986
未払解約金	6,290,350	3,476,024	10,693,509	155,277	3,671,256	11,813,104
未払信託報酬	2,945,434	2,784,780	3,313,458	2,764,105	3,017,970	3,215,263
未払利息	104	46	113	103	142	41
その他未払費用	23	234	598	129	302	1,304
(C) 純資産総額(A-B)	2,669,125,885	2,689,321,661	2,719,801,501	2,629,746,773	2,648,055,283	2,738,559,919
元本	3,362,683,445	3,381,527,983	3,402,508,955	3,429,031,172	3,460,077,595	3,484,497,827
次期繰越損益金	△ 693,557,560	△ 692,206,322	△ 682,707,454	△ 799,284,399	△ 812,022,312	△ 745,937,908
(D) 受益権総口数	3,362,683,445口	3,381,527,983口	3,402,508,955口	3,429,031,172口	3,460,077,595口	3,484,497,827口
1万口当たり基準価額(C/D)	7.937円	7.953円	7.994円	7.669円	7.653円	7.859円

(注1) 当ファンドの第80期首元本額は3,368,948,140円、当作成期中(第80期～第85期)における追加設定元本額は331,037,306円、同一部解約元本額は215,487,619円です。

(注2) 1口当たり純資産額は、第80期0.7937円、第81期0.7953円、第82期0.7994円、第83期0.7669円、第84期0.7653円、第85期0.7859円です。

○損益の状況

項 目	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期	第85期
	2019年1月22日～ 2019年2月20日	2019年2月21日～ 2019年3月20日	2019年3月21日～ 2019年4月22日	2019年4月23日～ 2019年5月20日	2019年5月21日～ 2019年6月20日	2019年6月21日～ 2019年7月22日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	△ 1,206	△ 1,267	△ 1,557	△ 1,464	△ 2,112	△ 2,243
支払利息	△ 1,206	△ 1,267	△ 1,557	△ 1,464	△ 2,112	△ 2,243
(B) 有価証券売買損益	72,535,524	28,144,060	37,209,785	△ 87,484,615	18,153,515	95,190,819
売買益	72,816,789	28,163,529	37,447,534	63,204	18,173,207	95,805,313
売買損	△ 281,265	△ 19,469	△ 237,749	△ 87,547,819	△ 19,692	△ 614,494
(C) 信託報酬等	△ 2,946,023	△ 2,785,020	△ 3,314,786	△ 2,764,289	△ 3,018,324	△ 3,216,689
(D) 当期損益金 (A + B + C)	69,588,295	25,357,773	33,893,442	△ 90,250,368	15,133,079	91,971,887
(E) 前期繰越損益金	△391,633,565	△327,603,723	△306,236,204	△281,549,133	△373,443,973	△362,992,958
(F) 追加信託差損益金	△351,336,190	△369,671,205	△389,949,639	△406,910,711	△432,950,953	△454,009,851
(配当等相当額)	(328,309,622)	(319,050,769)	(309,203,472)	(301,100,750)	(289,345,157)	(278,942,359)
(売買損益相当額)	(△679,645,812)	(△688,721,974)	(△699,153,111)	(△708,011,461)	(△722,296,110)	(△732,952,210)
(G) 計 (D + E + F)	△673,381,460	△671,917,155	△662,292,401	△778,710,212	△791,261,847	△725,030,922
(H) 収益分配金	△ 20,176,100	△ 20,289,167	△ 20,415,053	△ 20,574,187	△ 20,760,465	△ 20,906,986
次期繰越損益金 (G + H)	△693,557,560	△692,206,322	△682,707,454	△799,284,399	△812,022,312	△745,937,908
追加信託差損益金	△362,433,045	△381,506,553	△400,497,417	△421,312,642	△445,407,232	△465,160,244
(配当等相当額)	(317,268,542)	(307,294,519)	(298,770,923)	(286,743,756)	(276,985,858)	(267,884,332)
(売買損益相当額)	(△679,701,587)	(△688,801,072)	(△699,268,340)	(△708,056,398)	(△722,393,090)	(△733,044,576)
分配準備積立金	256,032	90,041	73,353	234,666	97,435	329,400
繰越損益金	△331,380,547	△310,789,810	△282,283,390	△378,206,423	△366,712,515	△281,107,064

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<分配金の計算過程>

第80期計算期間末における費用控除後の配当等収益(9,322,854円)、費用控除後の有価証券等損益額(0.0円)、信託約款に規定する収益調整金(328,365,397円)および分配準備積立金(12,423円)より分配対象収益は337,700,674円(10,000口当たり1,004円)であり、うち20,176,100円(10,000口当たり60円)を分配金額としています。

第81期計算期間末における費用控除後の配当等収益(8,270,954円)、費用控除後の有価証券等損益額(0.0円)、信託約款に規定する収益調整金(319,129,867円)および分配準備積立金(272,906円)より分配対象収益は327,673,727円(10,000口当たり968円)であり、うち20,289,167円(10,000口当たり60円)を分配金額としています。

第82期計算期間末における費用控除後の配当等収益(9,818,796円)、費用控除後の有価証券等損益額(0.0円)、信託約款に規定する収益調整金(309,318,701円)および分配準備積立金(121,832円)より分配対象収益は319,259,329円(10,000口当たり938円)であり、うち20,415,053円(10,000口当たり60円)を分配金額としています。

第83期計算期間末における費用控除後の配当等収益(6,316,861円)、費用控除後の有価証券等損益額(0.0円)、信託約款に規定する収益調整金(301,145,687円)および分配準備積立金(90,061円)より分配対象収益は307,552,609円(10,000口当たり966円)であり、うち20,574,187円(10,000口当たり60円)を分配金額としています。

第84期計算期間末における費用控除後の配当等収益(8,137,659円)、費用控除後の有価証券等損益額(0.0円)、信託約款に規定する収益調整金(289,442,137円)および分配準備積立金(263,962円)より分配対象収益は297,843,758円(10,000口当たり860円)であり、うち20,760,465円(10,000口当たり60円)を分配金額としています。

第85期計算期間末における費用控除後の配当等収益(9,985,988円)、費用控除後の有価証券等損益額(0.0円)、信託約款に規定する収益調整金(279,034,725円)および分配準備積立金(100,005円)より分配対象収益は289,120,718円(10,000口当たり829円)であり、うち20,906,986円(10,000口当たり60円)を分配金額としています。

○分配金のお知らせ

	第80期	第81期	第82期	第83期	第84期	第85期
1万円当たり分配金（税込み）	60円	60円	60円	60円	60円	60円

◇分配金を再投資される場合のお手取分配金は、自動けいぞく投資約款の規定に基づき、各決算日の翌営業日に再投資いたしました。

◇分配金をお受け取りになる場合の分配金は、各決算日から起算して5営業日目までにお支払いを開始しています。

◇分配金のお取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

(注1) 分配金は、分配後の基準価額と各受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）があります。分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額が「普通分配金」となります。分配後の基準価額を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が「元本払戻金（特別分配金）」、残りの部分が「普通分配金」となります。

(注2) 個人の受益者の場合、収益分配金のうち、課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率が適用されます。

(注3) 法人の受益者の場合、収益分配金のうち、課税扱いとなる普通分配金については、15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）が源泉徴収されます。

(注4) 当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

(注5) 税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

運用報告書

親投資信託

しんきんアジア債券マザーファンド

第8期

(決算日：2019年7月22日)

しんきんアジア債券マザーファンドの第8期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	アジア各国のソブリン債券および準ソブリン債券を主要投資対象とします。
運用方針	<p>①新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建てソブリン債券および準ソブリン債券への投資を通じ、アジア各国の債券に分散投資を行います。</p> <p>②FTSEアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、投資環境、金利水準ならびに流動性等を勘案して、ポートフォリオの構築を図ります。</p> <p>③主にアジアの自国通貨建てソブリン債券、準ソブリン債券に投資するほか、米ドルなどの外国通貨建てソブリン債券・準ソブリン債券に投資する場合があります。（米ドルなどの外国通貨建て債券に投資した場合は、原則として、実質的に自国通貨建てとなるように外国為替予約取引等を行います。）</p> <p>④外貨建資産の組入比率については、原則として高位を保ちます。</p> <p>⑤外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</p> <p>⑥市況動向あるいは資金動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	<p>①株式への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>②同一銘柄の株式への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>③同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>④投資信託証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>⑤同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>⑥外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p>

○最近5期の運用実績

決算期	基準	価額		債組入比率	券率	純資産額
		期騰	落中率			
	円		%		%	百万円
4期(2015年7月21日)	15,630		13.7		96.7	1,927
5期(2016年7月20日)	14,385		△ 8.0		98.5	1,868
6期(2017年7月20日)	14,917		3.7		97.4	2,021
7期(2018年7月20日)	14,636		△ 1.9		96.4	2,587
8期(2019年7月22日)	15,711		7.3		97.6	2,731

(注) 当ファンドは、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建ソブリン債券および準ソブリン債券へ投資することにより、投資信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指していますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準	価額		債組入比率	券率
		騰	落率		
(期首) 2018年7月20日	円		%		%
	14,636		—		96.4
7月末	14,459		△1.2		96.3
8月末	14,418		△1.5		96.3
9月末	14,454		△1.2		97.0
10月末	14,075		△3.8		96.6
11月末	14,811		1.2		97.4
12月末	14,644		0.1		97.8
2019年1月末	14,737		0.7		97.4
2月末	15,252		4.2		97.9
3月末	15,359		4.9		96.7
4月末	15,396		5.2		97.1
5月末	14,950		2.1		97.1
6月末	15,446		5.5		97.2
(期末) 2019年7月22日	円		%		%
	15,711		7.3		97.6

(注) 騰落率は期首比です。

○第8期の運用経過等（2018年7月21日～2019年7月22日）

<当期中の基準価額等の推移>



当ファンドは、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の国債を中心とした外貨建債券へ分散投資を行っています。

当期の基準価額は上昇しました。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・米国の利下げ観測が高まったことに影響を受けて、アジア各国の金利も低下（債券価格は上昇）したこと。
- ・投資している各国債券の金利収入を得たこと。

<下落要因>

- ・米国と中国の貿易摩擦の激化や、景気悪化懸念でシンガポールドル、マレーシアリングgitが対円で下落したこと。

＜投資環境＞

(債券市況：アジア圏)

2018年7月から11月までは米国経済が堅調に推移し、米連邦準備制度理事会（F R B）が利上げ姿勢を維持し米国金利が上昇していたことから、アジア各国の金利も上昇基調で推移していました。しかし、2018年末から2019年1月にかけて、米国の景気悪化懸念によりF R Bが様子見姿勢に転じたこと、5月に米中貿易摩擦などによる世界景気の悪化観測の高まりを受けて、F R B高官が利下げに言及、利下げ観測が高まったこと、アジア各国の金融当局が金融緩和姿勢となったことから、アジア各国の金利も前期比低下となりました。

(為替市況：アジア圏)

米国の利上げを受けて、アジア各国からの資金流出観測により対円で下落となっていました。アジア各国の金融当局が通貨安に対して警戒感を強めたことや、F R Bが様子見姿勢に転じたことなどからアジア各国の通貨高に転じました。しかし、2019年5月に米中貿易摩擦の激化により、再度アジア各国の通貨は下落し、前期末比でタイバーツ、フィリピンペソは上昇、インドネシアルピアはほぼ変わらず、シンガポールドル、マレーシアリングgitおよび韓国ウォンは下落となりました。

＜当ファンドのポートフォリオ＞

F T S Eアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、投資環境、金利水準および流動性等を勘案し、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの6か国のソブリン債、準ソブリン債を投資対象とし、各国の現地通貨建国債を組み入れています。当期を通じて、当該債券の組入比率が高位となるように運用を行いました。

6か国の組入比率については、おおむねインドネシア29%程度、マレーシア24%程度、フィリピン19%程度、シンガポール・タイ14%程度および韓国0%としました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当ファンドは、F T S Eアジア国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）を参考として、新興国を含むアジア地域（日本を除く。）の外貨建ソブリン債および準ソブリン債を投資対象としていますが、組入国および国別比率については、当社独自の判断で運用を行っているため、比較対象となるベンチマークおよび参考指標はありません。

＜今後の運用方針＞

ポートフォリオ組入国は、金利水準、流動性を考慮し、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポールおよびタイの5か国構成とします。組入銘柄は、引き続き現地通貨建国債の組入れを維持します。

○1万口当たりの費用明細

(2018年7月21日～2019年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 17	% 0.113	(a)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(17)	(0.112)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	17	0.113	
期中の平均基準価額は、14,833円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2018年7月21日～2019年7月22日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外	シンガポール	国債証券	千シンガポールドル 214	千シンガポールドル 414
			千タイバーツ 44,553	千タイバーツ 34,504
国	インドネシア	国債証券	千インドネシアルピア 10,155,850	千インドネシアルピア -

(注1) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2018年7月21日～2019年7月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2019年7月22日現在)

外国公社債

(A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
シンガポール	千シンガポールドル 4,200	千シンガポールドル 4,541	千円 360,305	% 13.2	% —	% 9.7	% 3.5	% —
マレーシア	千マレーシアリンギット 23,000	千マレーシアリンギット 24,199	634,993	23.2	—	15.9	7.4	—
タイ	千タイバーツ 99,000	千タイバーツ 109,733	384,065	14.1	—	11.6	2.4	—
フィリピン	千フィリピンペソ 189,000	千フィリピンペソ 204,263	430,996	15.8	—	9.5	6.2	—
インドネシア	千インドネシアルピア 109,000,000	千インドネシアルピア 109,700,313	855,662	31.3	—	29.4	1.9	—
合 計	—	—	2,666,023	97.6	—	76.2	21.4	—

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 単位未満は切り捨て。

(注4) 一印は組み入れなし。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄		当 期 末					償還年月日
		利 率	額面金額	評 価 額		債 還 年 月 日	
				外貨建金額	邦貨換算金額		
シンガポール		%	千シンガポールドル	千シンガポールドル	千円		
	国債証券 SIGB 2.875 09/01/30	2.875	1,850	2,003	158,948	2030/9/1	
	SIGB 3.125 09/01/22	3.125	1,150	1,199	95,177	2022/9/1	
	SIGB 3.500 03/01/27	3.5	1,200	1,338	106,178	2027/3/1	
小 計					360,305		
マレーシア			千マレーシアリンギット	千マレーシアリンギット			
	国債証券 MGS 3.480 03/15/23	3.48	2,900	2,908	76,311	2023/3/15	
	MGS 4.181 07/15/24	4.181	4,600	4,746	124,559	2024/7/15	
	MGS 4.498 04/15/30	4.498	15,500	16,544	434,122	2030/4/15	
小 計					634,993		
タイ			千タイバーツ	千タイバーツ			
	国債証券 THAIGB 3.650 12/17/21	3.65	18,000	18,821	65,874	2021/12/17	
	THAIGB 3.850 12/12/25	3.85	81,000	90,911	318,191	2025/12/12	
小 計					384,065		
フィリピン			千フィリピンペソ	千フィリピンペソ			
	国債証券 RPGB 4.125 08/20/24	4.125	33,000	31,879	67,265	2024/8/20	

しんきんアジア債券マザーファンド ー第8期ー

銘	柄	当 期 末					
		利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日	
				外貨建金額	邦貨換算金額		
フィリピン		%	千フィリピンペソ	千フィリピンペソ	千円		
	国債証券	RPG B 5.375 03/01/27	5.375	24,000	24,717	52,154	2027/3/1
		RPG B 5.750 11/24/21	5.75	79,000	80,696	170,270	2021/11/24
		RPG B 8.000 07/19/31	8.0	53,000	66,969	141,306	2031/7/19
小	計					430,996	
インドネシア			千インドネシアルピア	千インドネシアルピア			
	国債証券	INDOGB 10.250 07/15/27	10.25	23,000,000	27,236,692	212,446	2027/7/15
		INDOGB 6.125 05/15/28	6.125	59,500,000	55,766,494	434,978	2028/5/15
		INDOGB 7.000 05/15/22	7.0	6,500,000	6,622,167	51,652	2022/5/15
		INDOGB 7.000 05/15/27	7.0	20,000,000	20,074,960	156,584	2027/5/15
小	計					855,662	
合	計					2,666,023	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 額面・評価額の単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2019年7月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	2,666,023	97.6
コール・ローン等、その他	65,722	2.4
投資信託財産総額	2,731,745	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産 (2,727,576千円) の投資信託財産総額 (2,731,745千円) に対する比率は99.8%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2019年7月22日現在、1ドル=107.98円、1シンガポールドル=79.33円、1マレーシアリングgit=26.24円、1タイバーツ=3.50円、1フィリピンペソ=2.11円、100インドネシアルピア=0.78円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年7月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,738,902,634
コール・ローン等	44,979,345
公社債(評価額)	2,666,023,575
未収入金	7,163,819
未収利息	20,025,177
前払費用	710,718
(B) 負債	7,157,274
未払金	7,157,120
未払利息	3
その他未払費用	151
(C) 純資産総額(A-B)	2,731,745,360
元本	1,738,696,618
次期繰越損益金	993,048,742
(D) 受益権総口数	1,738,696,618口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,711円

(注1) 当親投資信託の期首元本額は1,767,845,201円、期中追加設定元本額は61,575,232円、期中一部解約元本額は90,723,815円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額は、しんきんアジア債券ファンド(毎月決算型)1,738,696,618円です。

(注3) 1口当たり純資産額は15,711円です。

○損益の状況 (2018年7月21日～2019年7月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	116,912,080
受取利息	116,918,647
支払利息	△ 6,567
(B) 有価証券売買損益	73,376,928
売買益	125,871,289
売買損	△ 52,494,361
(C) 保管費用等	△ 2,950,652
(D) 当期損益金(A+B+C)	187,338,356
(E) 前期繰越損益金	819,561,803
(F) 追加信託差損益金	28,424,768
(G) 解約差損益金	△ 42,276,185
(H) 計(D+E+F+G)	993,048,742
次期繰越損益金(H)	993,048,742

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。